

【夏休み中の学校】

「夏休み中、学校の教員は何をしているのだろう」と思ったことがある方はいませんか？実は、夏休みだからできる業務や研修、企画や準備等をしているのです。その一部を紹介します。

（１）環境整備・片付けなど

1学期の活動を終え、各行事等の後片付けなどを行います（プール、用具室、体育館、各教室、グラウンド、校舎周りなど）。2学期の親善陸上大会に向けグラウンド周辺の雑草取りも行います。加茂市教育委員会からは、プレイルームのエアコンの設置や2階廊下のワックスがけを実施してもらいました。

（２）研修・発表会への参加

教員は、研修をする義務があります。夏はそのチャンスです。多くの職員が、複数の研修会に参加しています。年層に応じた「初任者研修」や「中堅研修」もあります。学んだことを校内で伝達する会も行います。7月後半と8月下旬の2回に分けて、校内では、「人権教育等に関する研修」「非違行為根絶のための研修」「アレルギー対応研修」「学力向上のための研修」「道徳研修」「特別支援教育研修」「学校保健委員会」などを実施しました。

（３）1学期の業務のまとめと2学期の準備（教室・行事）

自分が担当する校務分掌に応じて、学校の実態を県などに報告する文書を作成することもあります。夏休み後半は2学期の学級経営のために掲示物をつくったり教室の整理をしたりします。椅子や机の修理、水やり、花壇の水やり、夏休み後に行われるコンクールの提出への準備もします。2学期の各種行事の企画もします。主な中身は、文化祭、親善陸上大会、タイムチャレンジマラソン、新清掃班、就学時健康診断、市内音楽発表会、授業・給食準備などです。

【防災の日を迎えて】（9月1日）



平成16年7月13日、日本各地や新潟県は大きな被害を受けました。各教室では、以下のような話を子どもにする予定です。ご家庭でも、避難場所や危険箇所など話題にしてください。

今年の夏は大変暑く、また台風もたくさん来ていますね。ところで皆さんは、「二百十日」という言葉を聞いたことがありますか。立春から数えて、210日目、ちょうど9月1日頃を指しています。昔から、季節の変わり目を表す日として「節分」や「八十八夜」などが有名ですが、「二百十日」も雨や台風が多い日として設けられたようです。昔の人は、この日に「自然としっかり向き合いなさい」ということを伝えようとしたのかもしれません。

この9月1日を、日本では「**防災の日**」と決めています。この日が防災の日になったのは、1923年（大正12年）、今から90年以上前の9月1日に起きた「関東大震災」がきっかけでした。この震災でもたくさんの人が亡くなったのです。

全国各地では、1日に、「総合防災訓練」というのを行いました。そのニュースをみた人も多いでしょう。



ここ数年、県内だけでなく全国各地で、地震、台風や大雨（水害）などの被害を受けています。私たちは天災を止めることはできませんが、災害から命を守ることはできるはずです。

今年も全国で起きた水害などの復興に向けて、心をつなげ支え合う活動を行ってきていますが、石川小学校の子どもたちにも、「**防災**」と「**忘災**」を意識した**生き方**を身に付けてほしいと思っています。

今年も石川小学校は、避難訓練を3回ほど予定しています。災害などから自分の命をどう守ればいいのか、「防災の日」やこれから行う「避難訓練」をきっかけに、またしっかりと考え行動していきましょう。

市の消防署を見学したり防災の取組に参加したりするのもいいですね。これからも、**自分の命を災害から守る力**を、家族の人と一緒にしっかりと身に付けていきましょう。

